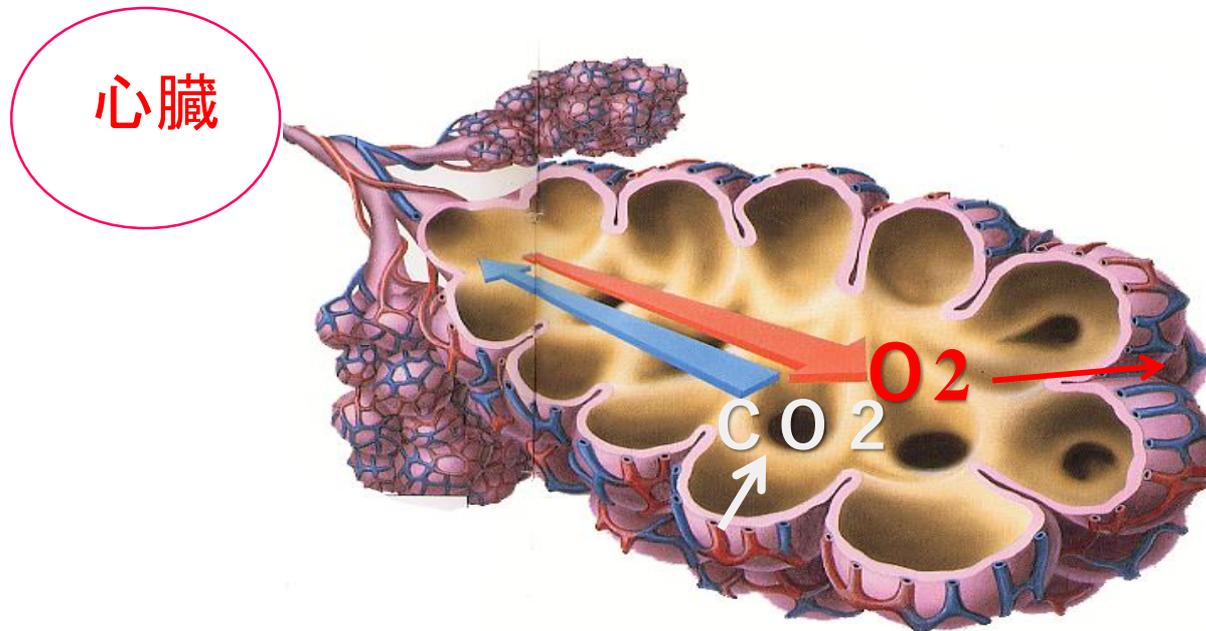


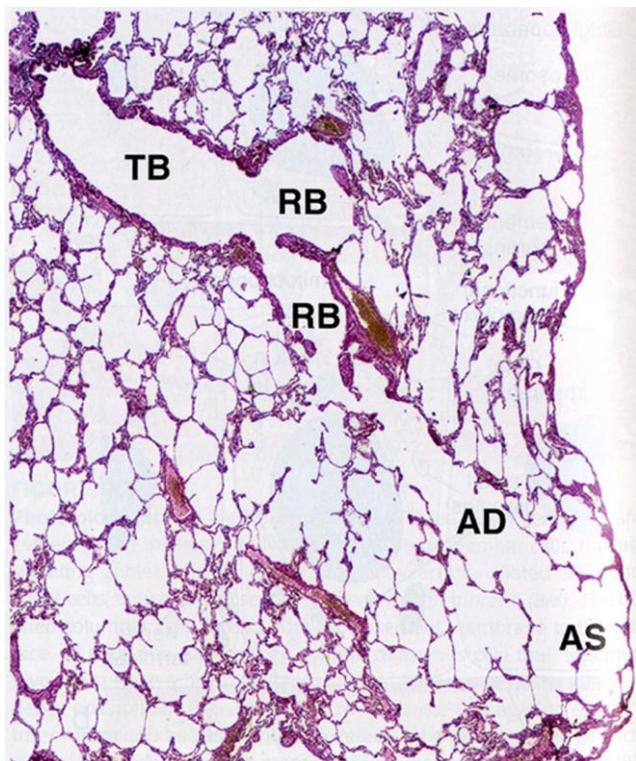
間質性肺炎について



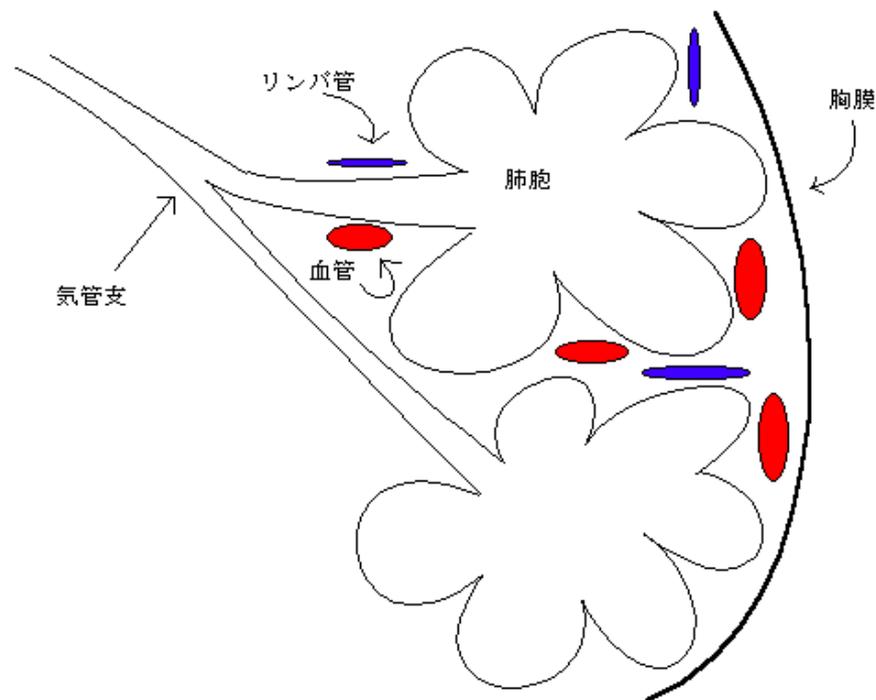
肺胞： ガス交換の場で酸素を取り入れ、二酸化炭素を排出する

間質性肺炎： 肺胞 の壁が傷害されるのでガス交換障害が起こる

肺の構造

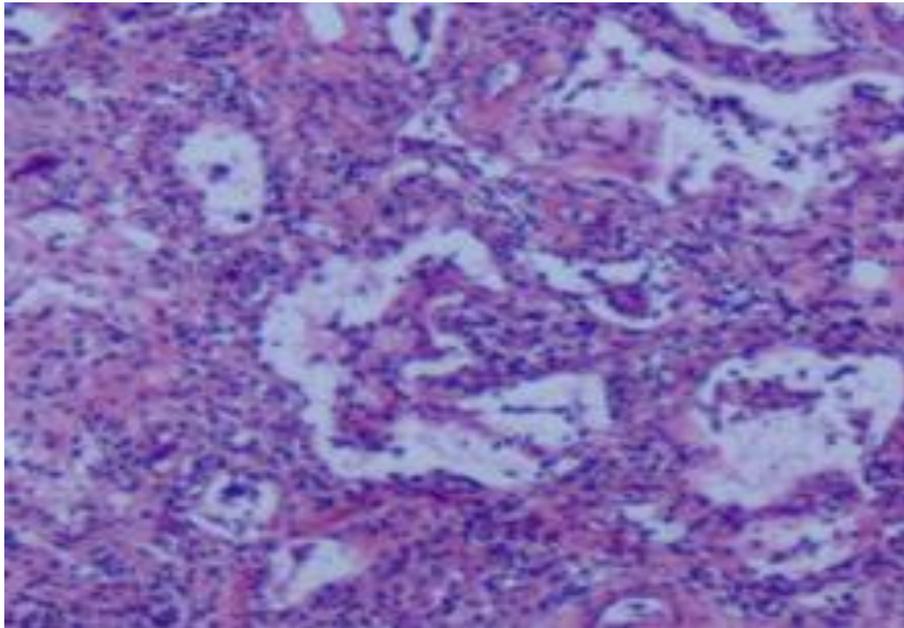


正常なガス交換が行われるには、肺胞が健常でなければならない



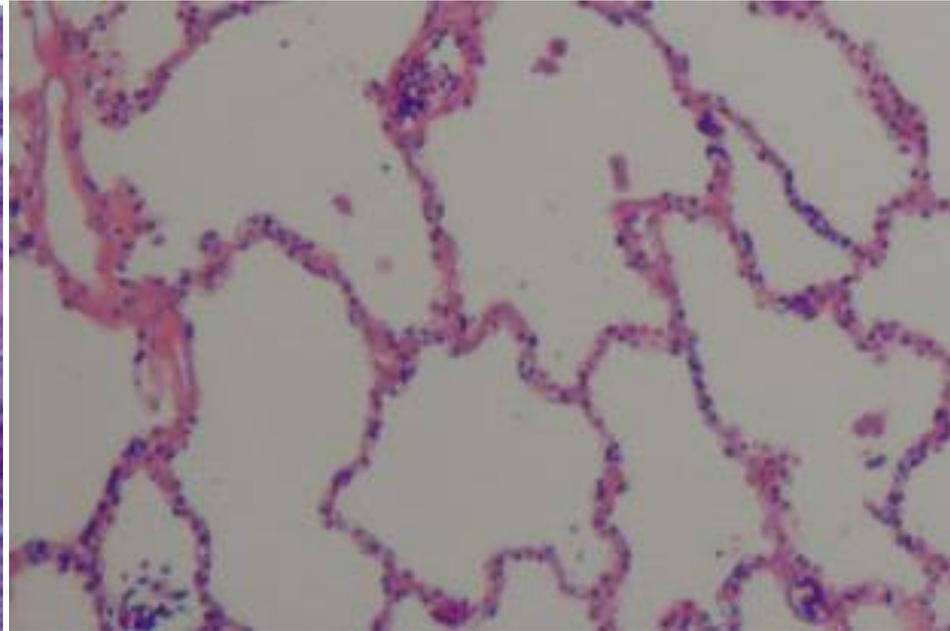
・空気に接している肺胞腔内を肺の“実質”といい、それ以外のところを“間質”という。間質性肺炎は間質が何らかの原因で損傷することで発症する。

間質性肺炎の組織像



- ・肺胞に損傷(炎症)が起こり、つぶれる。
酸素を取り込む機構が破壊される。

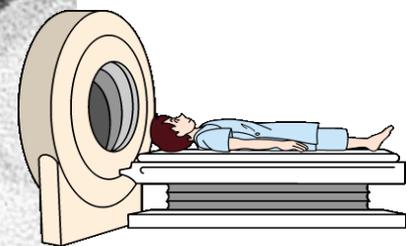
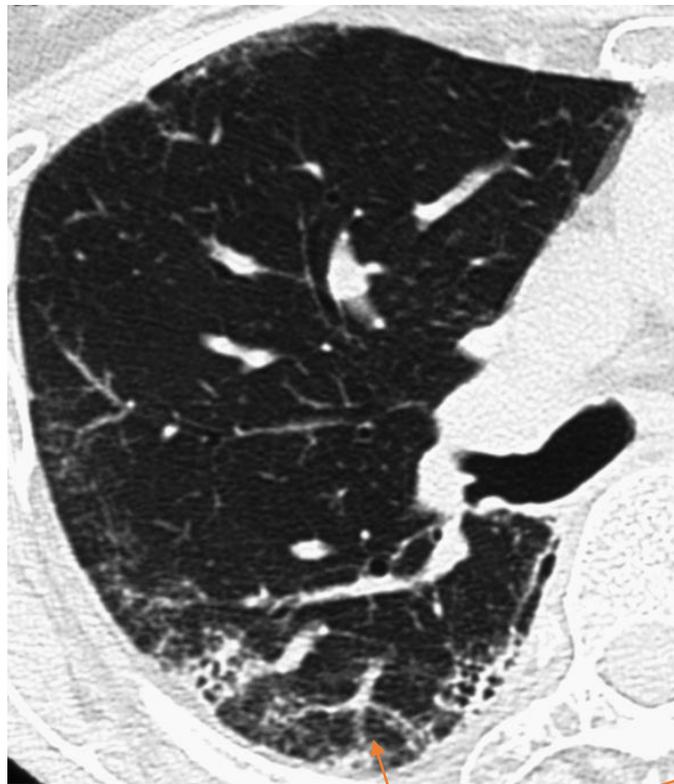
※炎症とは肺胞に炎症細胞が浸潤したり、
線維化が起こってくることを言う。



正常な肺胞

間質性肺炎の画像診断には

胸部CT、特に高分解能(HR)CTが極めて有用



明らかに間質性肺炎があることがわかる

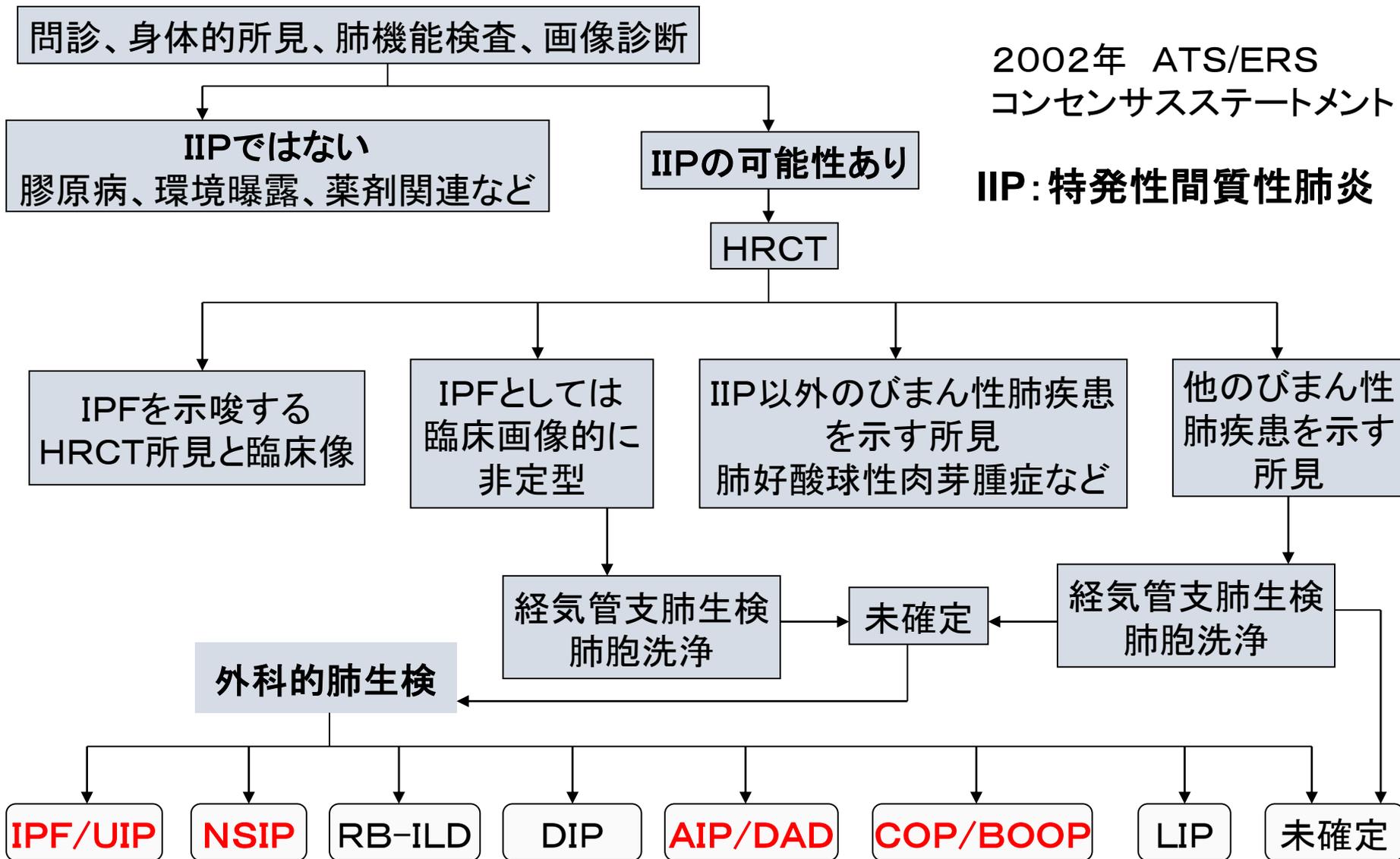
間質性肺炎には多くの種類がある

- 過敏性肺炎
- 薬剤によるもの
- 膠原病によるもの
- サルコイドーシス
- 珪肺・石綿肺など、
職業によるもの
- 血管炎によるもの
- 好酸球性肺炎
- 特発性間質性肺炎
(原因不明のもの)
- 細気管支炎
- 肺ランゲルハンス細胞
組織球症
- リンパ脈管筋腫症
- その他

特発性間質性肺炎の診断過程

2002年 ATS/ERS
コンセンサスステートメント

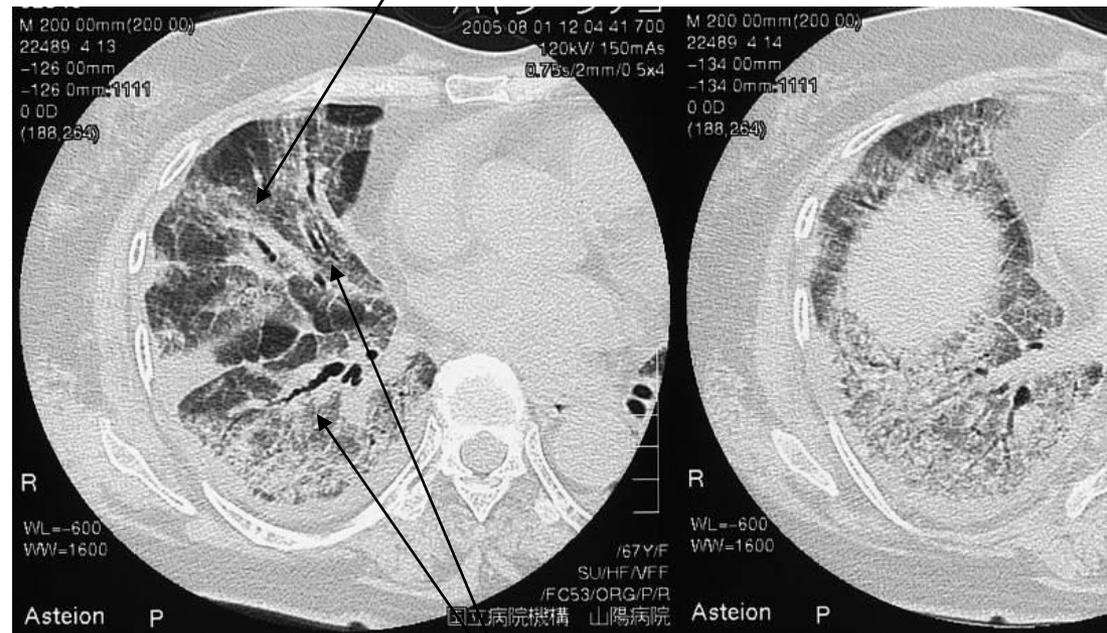
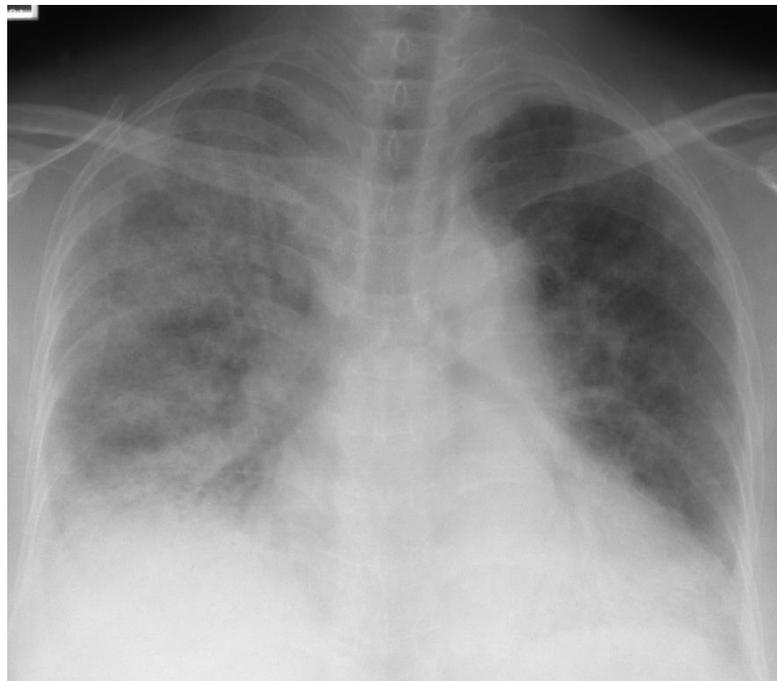
IIP: 特発性間質性肺炎



7つに分類

DAD (diffuse alveolar damage)とは びまん性肺胞障害

広範に、びまん性に濃淡のスリガラス陰影があり、その中にtraction bronchiectasisあれば、DADパターンとする。予後は極めて不良である。



濃淡のスリガラス陰影

牽引性気管支拡張

薬剤性にしろ、特発性にしろ、死に至るケースはこのパターン

間質性肺炎の治療

間質性肺炎の診断、治療は大変難しい。

- 副腎皮質ステロイド
 - プレドニゾン(プレドニン)
 - メチルプレドニゾン(ソルメドロール)など
 - 重症例はパルス療法(ソルメドロール1g/日X3日間)
- 免疫抑制剤
 - シクロスポリン(ネオーラル)
 - シクロフォスファミド(エンドキサン)など
- エントキシシン吸着療法
 - ARDSに対してポリミキシン吸着カラムにて血液透析
- ニンテダニブエタンスルホン酸塩(オフェブ): 急性増悪の予防、慢性管理
抗線維化薬

専門医による診断、治療が必要です